様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　８ 月 １９ 日現在

機関番号：１４３０２
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2019～2020
課題番号：１９Ｋ２３３３６

研究課題名（和文）教育心理学的視点から見た児童の外国語への動機づけに関する研究

研究課題名（英文）A Research on Pupils' Motivation to Foreign Language From the Perspective of Educational Psychology

研究代表者
染谷　藤重（SOMEYA, Fujishige）

京都教育大学・教育学部・講師

研究者番号：９０８３７１６３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、自己決定理論の観点から、基本的欲求理論の枠組みを用いた小学生児童における外国語活動及び、英語の授業における動機づけを明らかにし、その動機づけが有機的統合理論の枠組みを用いた英語学習における動機づけとどのような関連性を持っているかを明らかにすることを目的としている。
高学年児童を対象とし、事前調査により、英語授業における欲求充足及び阻害尺度を作成する。また、英語学習における内発的動機づけ及び外発的動機づけの尺度の作成も行う。本調査では、英語授業における欲求充足及び不満が、英語学習における内発的動機づけ及び外発的動機づけとどのような関連性を持っているかを明らかとする。

研究成果の学術的意義や社会的意義
研究成果の学術的意義に関しては、2020年度から実施されている小学校外国語における児童の動機づけ要因の関連性を明らかにすることは非常に重要であるという点にある。その理由として、児童が新しい教科としての英語（外国語）においてどのような動機づけ要因を有し、それらがどのように関連しているかを明らかにすることは今後の教育を進めるにあたり重要とされることであるからである。本研究では、心理的欲求の充足が内発的及び自律的動機づけに影響し、阻害が他律的動機づけに影響してしまうことが明らかになった。この結果を踏まえて今後の外国語の授業について考えていく必要性を学術的見地から見出した。

研究成果の概要（英文）：In this study, from the viewpoint of self-determination theory(SDT), we clarified the motivation in foreign language activities and English classes in elementary school children using Basic Psychological Needs Theory(BPNT) and Organic Integration Theory(OIT). The purpose is to clarify the relationship with the motivation in learning English.
A preliminary survey was conducted for fifth- and sixth-graders to create English classes' need satisfaction scales and their frustration scales. It also makes scales for intrinsic and extrinsic motivation in learning English. This study clarifies how need satisfaction and frustration in English lessons are related to intrinsic and extrinsic motivation in learning English.

研究分野：動機づけ

キーワード：動機づけ　自己決定理論　内発的動機づけ　心理的欲求

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

自己決定理論 (Self-determination Theory：SDT) とは、成長と統合へと向かう自己の傾向性及び、より統合された自己の感覚を発達させていく傾向性を生得的に備えているという生命体論的視座(organismic viewpoint)に立った動機づけの考え方である(鹿毛, 2013)。自己決定理論には、６つの下位理論が存在し（Ryan & Deci, 2017）、現在の教育において基本的欲求理論が非常に重要視されている。基本的欲求理論 (Basic Psychological Needs Theory：BPNT) とは、自律性・有能性・関係性の欲求の充足が内発的動機づけの促進、人の成長、統合的な発達、ウェルビーイングのために不可欠であるとする考え方である。また、３つの欲求の阻害が、不適応な機能を果たし、虚脱感や強引な自己主張、受け身の状態にさせ、イルビーイングにつながるとしている(Reeve, 2016)。

廣森（2006）や Agawa & Takeuchi (2017) においては、日本人英語学習者の大学生に対して、英語授業に対する欲求充足と英語学習の外発的動機づけにおける４つの統制との関連性を検証している。Jang, et al. (2016) では、韓国の英語学習者である中学生を対象として、英語授業における３つの欲求充足と阻害の尺度とエンゲージメントの関連について調査研究を行い、３欲求の充足は、肯定的なエンゲージメントに、阻害は否定的なエンゲージメントに関与することを明らかにした。さらに、Reeve (2016) においては、３欲求の充足が内発的動機づけを促進するとしており、言語学習における内発的動機づけとの関連性の検証も必要とされる。上記のことを踏まえると、基本的欲求理論の枠組みを「英語授業における欲求充足と欲求阻害」に分け、「英語学習における内発的動機づけ及び外発的動機づけ」との関連性を明らかにすることは、今後の英語教育において急務であると考える。

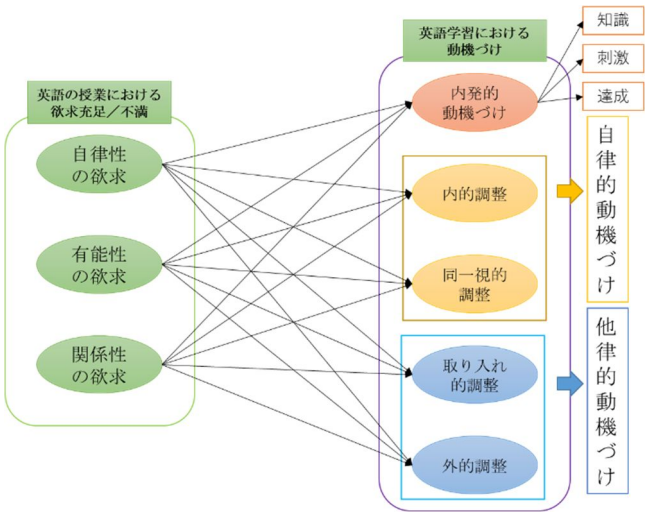

図１　動機づけの関連図

２．研究の目的

小学校英語については、2020 年度から高学年の教科化、中学年の必修化となる。このことを踏まえて、先行実施期間である現在、児童が英語の授業に対してどのような動機づけを持ち、その動機づけが英語学習動機にどのような影響を及ぼしていることを知ることは、今後の小学校英語教育を促進していくうえで直近の課題であると考える。そこで、本研究では、小学生児童における外国語活動及び、英語の授業に対する動機づけを明らかにし、その動機づけが英語の学習における動機づけとどのような関連性を持っているかを明らかにすることを目的としている。

３．研究の方法

参加者は、千葉県 A 市における公立小学校の児童 610 名であった。2020 年 2 月から 3 月にかけて、基本的心理欲求理論及び有機的統合理論に関するアンケート調査を行った。アンケートは 4 件法で作成された。アンケート項目は、染谷 (2018)及び Oga-Baldwin and Nakata (2017) の質問項目を参考に作成された。

４．研究成果

（１）検証的因子分（CFA）の結果

心理的欲求充足及び欲求阻害の質問項目が各因子を構成しているかを検討するために CFA を行ったその結果を図２及び図３に示す。

図２におけるモデル適合度指標は、χ^2 = 119.804, *df* = 24, GFI = .954, AGFI = .913, CFI = .916 RMSEA[90%CI] = .081[.067, .096]と概ね受け入れられる結果を示した。

また、図３におけるモデル適合度指標は、χ^2 = 102.284, *df* = 24, GFI = .962, AGFI = .929, CFI = .961 RMSEA[90%CI] = .073[.059, .088]と概ね受け入れられる結果を示した。

上記の結果より、自律性、有能性、関係性の欲求充足及び阻害を測るために作成した質問項目は、各因子を適切に反映していると捉えることができるであろう。

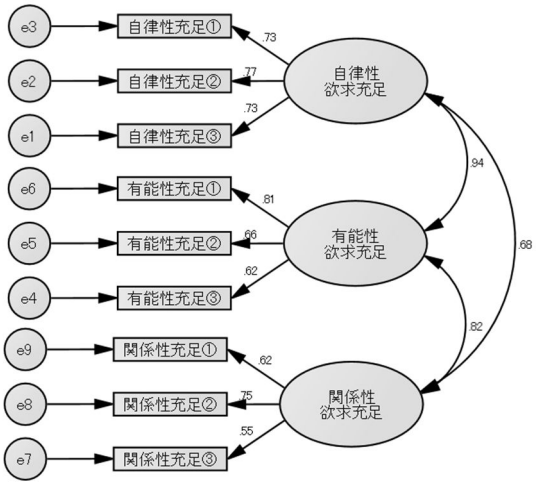

図２　CFA の結果（欲求充足）

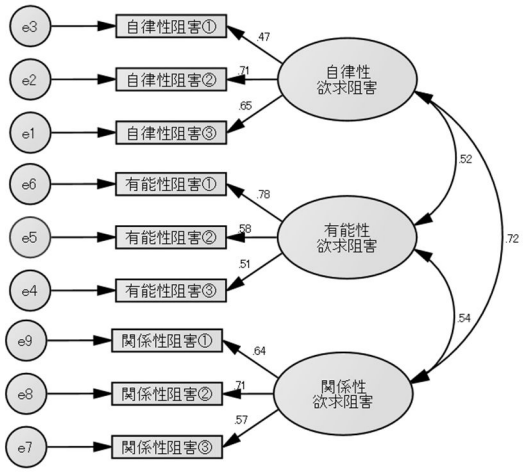

図３ CFA の結果（欲求阻害）

（２）動機づけの関連性の分析結果

図１で示した英語授業における欲求と英語学習における動機づけの関連性を明らかにするために IBM SPAA AMOS **を用いたパス解析を行った。**

分析の結果、自律性・有能性・関係性の欲求充足が、内発的動機づけと自律的動機づけを正に予測することが明らかになった。他律的動機づけに関して言えば、３欲求のどの欲求もパス係数に有意な差は見られなかった。すなわち、先行研究にも表れているように、欲求充足は、内発的・自律的動機づけを予測することが明らかとなった。

欲求阻害に関しては、自律性の欲求阻害が内発的及び自律的動機づけを負に予測すること、及び他律的動機づけを正に予測することが明らかとなった。また、関係性の欲求阻害が他律的動機づけを正に予測することが明らかとなった。総じていえば、欲求阻害に関しては、内発的及び自律的動機づけを阻害し、他律的動機づけを高めてしまうことが明らかとなった。諸外国での研究結果でも、類似した研究結果が得られているため、日本の小学生においても、欲求阻害の影響が表れたことは今後の動機づけ研究において重要な知見であると考える。

＜引用文献＞

染谷藤重 (2018, October 7). **「小学校英語教育における動機づけに関する調査研究―基本的欲求充足・不満尺度の作成―［ポスター発表］」東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科合同ゼミナール, 東京, 日本.**

廣森友人 (2006). **『外国語学習者の動機づけを高める理論と実践』東京：多賀出版.**

鹿毛雅治 (2013). **『学習意欲の理論 動機づけの教育心理学』 東京： 金子書房.**

Agawa, T., & Takeuchi, O. (2017). Examining the validation of a newly developed motivation questionnaire: Applying self-determination theory in the Japanese university EFL context. JACET Journal, 61, 1-21.

Oga-Baldwin, W. L. Q., & Nakata, Y. (2017). Engagement, gender, and motivation: A predictive model for Japanese young language learners. System, 65, 151-163.

Ryan, R. M., & Deci, E. L. (2017). Self-determination theory: Basic psychological needs in motivation, development, and wellness: Guilford Press.

Reeve, J. (2016). Understanding motivation and emotion (6th edition). Hoboken, NJ: John Wiley & Sons, Inc.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計7件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　4件）

１．著者名 染谷藤重	４．巻 17
２．論文標題 小学校英語授業における心理的欲求充足が聴解力に及ぼす影響に関する調査報告	５．発行年 2019年
３．雑誌名 JACET中部支部紀要	６．最初と最後の頁 45-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 内山寿彦・染谷藤重	４．巻 39(2)
２．論文標題 基本的欲求不満尺度の作成に関する予備調査 ： 内発的動機づけへの影響に焦点を当てて	５．発行年 2020年
３．雑誌名 上越教育大学研究紀要	６．最初と最後の頁 467-475
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 染谷藤重	４．巻 10
２．論文標題 小学生英語学習の動機づけと聴解力の関連性 ： 自己決定理論の枠組みを応用して	５．発行年 2020年
３．雑誌名 鳴門教育大学小学校英語教育センター紀要	６．最初と最後の頁 15-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Someya, F & Honda, K	４．巻 64
２．論文標題 A Motivation-appraisal model for Japanese EFL learners: Meta-analytic path analysis of Self-determination theory	５．発行年 2020年
３．雑誌名 JACET Journal	６．最初と最後の頁 133-148
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 染谷藤重	4．巻 40(1)
2．論文標題 小学生の英語授業動機づけが内発的動機づけに及ぼす影響―基本的欲求充足及び阻害に焦点を置いて―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 上越教育大学研究紀要	6．最初と最後の頁 227-234
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 染谷藤重	4．巻 138
2．論文標題 小学校高学年児童における動機づけに関する調査研究―基本的心理欲求理論と有機的統合理論の関係性を探る	5．発行年 2021年
3．雑誌名 京都教育大学紀要	6．最初と最後の頁 153-168
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 染谷藤重	4．巻 39
2．論文標題 小学校外国語教育における児童の動機づけと英語力の関連性の分析	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日本児童英語教育学会（JASTEC）研究紀要	6．最初と最後の頁 125-141
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 染谷藤重
2．発表標題 英語の授業における欲求充足が内発的動機づけに及ぼす影響―小学校高学年児童に焦点を当てて―
3．学会等名 小学校英語教育学会
4．発表年 2019年

１．発表者名 染谷藤重
２．発表標題 小学校高学年児童における英語学習動機づけと聴解力の関連性
３．学会等名 中部地区英語教育学会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関